

令和 6 年 6 月 3 日現在

機関番号：12601

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2023

課題番号：17K02777

研究課題名(和文) 日本語諸方言における終助詞体系の対照研究

研究課題名(英文) A contrastive study of sentence-final particles in Japanese dialects

研究代表者

小西 いずみ (Konishi, Izumi)

東京大学・大学院人文社会系研究科(文学部)・准教授

研究者番号：60315736

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,000,000円

研究成果の概要(和文)：研究期間全体を通じて、次の成果を得た。

(1) 日琉諸方言の終助詞に関する、次の基礎資料を整備・公開した。日琉諸方言終助詞(文末助詞、文末詞)文献リストの作成・公開、終助詞の体系を把握するための既存の調査票の電子化・公開、終助詞やモダリティに関する日琉方言の記述・対照のための調査票の作成・公開、終助詞を含む例文集の作成・公開、談話資料の整備

(2) 各地域方言の記述・対照を次の観点から行い、論文・書籍、ウェブデータベースなどで公刊・公開した。終助詞の体系の記述・対照、個々の終助詞の意味・用法についての記述・対照、終助詞以外の形式の終助詞化についての記述・対照

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究において日本語諸方言の終助詞の体系や、その意味素性について記述・対照したことで、日本語という個別言語の多様性を明らかにするだけでなく、終助詞(文末詞)に関する言語学的な貢献ができた。また、研究成果(1)に記した基礎資料・データベースの整備は、他の研究者が広く利用することを想定しており、本研究成果では明かにできなかった方言や現象の今後の研究の発展に寄与するものである。さらに終助詞は若い世代に継承されやすく、一般の関心が高い言語要素でもある。本研究の成果は中・高等教育や社会教育活動にも生かせ、間接的にはあるが、日本社会に生活する市民の日本語地域方言に関する認識の更新に役立てられる。

研究成果の概要(英文)：Throughout the research period, the following results were obtained:

1. Basic materials on sentence-final particles (SFP) in Japonic varieties were prepared and made publicly available: 1). A comprehensive bibliography database of SFPs was made publicly available. 2). Existing survey forms for understanding the system of SFPs were digitized and made publicly accessible. 3). Survey sheets for describing and contrasting SFPs and modality were created and made publicly accessible. 4). Data sets of example sentences containing SFPs were compiled and published. 5). Discourse materials were maintained. 2. Various Japanese regional varieties were described and contrasted from the following perspectives, with the results published in articles, books, and web databases: 1). The systems of SFPs were described and contrasted. 2). The meanings and usages of individual SFPs were described and contrasted. 3). The transformation of non-SFP forms into SFPs was described and contrasted.

研究分野：日本語学、方言学

キーワード：終助詞 文末詞 モダリティ 日本語方言 方言間対照 言語調査票

様式 C - 19、F - 19 - 1 (共通)

1. 研究開始当初の背景

終助詞(文末詞)は日本語のほか、中国語などアジアの一部の言語に観察されるが、普遍的な言語現象とは言い難く、日本語の記述的研究が言語学的に寄与しうる領域と言える。現代日本語共通語(標準語)の終助詞の体系、および、個々の終助詞の意味・用法については、上述の一般言語学的意義、あるいは、日本語教育などへの応用上の意義の認識のもと、文法全般の記述的研究の進展とともに進められてきた。

方言の終助詞の記述的研究にも一定の蓄積があり、いくつかの方言においては、共通語よりも終助詞の種類が多いこと、個々の終助詞が共通語の代表的な終助詞「よ」や「ね」に単純には置換できない意味・用法を持つことが明らかになっている。しかし、特定の方言の個々の終助詞の記述が蓄積されるばかりで、方言間の終助詞体系の異同や、同形・類似形式の終助詞の意味・用法の異同は不明である。それらを明かにするためには、文タイプや意味素性の仮説的な設定など方言間の対照を可能にする道具立てが必要である。

本研究課題の代表者は、富山市方言の参照文法を編むなかで、終助詞についても体系的な整理を行った(『富山県方言の文法』ひつじ書房、2016年)。また、終助詞の方言間対照の観点として、(1)終助詞が担う意味論的意味の違い、(2)文タイプ(平叙文/疑問文/命令文)による終助詞の専用/汎用性、という2点を見出すという本研究課題に関わる予備的な成果がある(「対照方言学的研究のこれまでとこれから」『方言の研究』2巻、ひつじ書房、2016年)。

2. 研究の目的

本研究は、日本語諸方言の終助詞の体系を記述・対照し、その異同を明かにすることをすることを目的とする。これは次の3点に分けられる。

(1) 代表的方言の終助詞の種類と体系

地域(東北、関東、中部、近畿、中国、四国、九州)ごとに対象とする方言を選定し、各方言の終助詞の種類と体系を記述・対照する。

(2) 終助詞が担いうる意味素性のリスト、その観点からの各方言の各終助詞の対照

対聞き手性 など個々の終助詞の意味論的意味の記述・対照の上で、重要な意味素性をリストアップし、その観点から終助詞を対照する。これは(1)と同じ方言を対象とする。

(3) 終助詞の記述的研究のための調査票の作成

(1)(2)の遂行過程では、方言の終助詞の記述的研究において汎用性の高い調査例文リストを作成する。この調査票は今後の終助詞研究に有益と思われるので、成果として公表する。

3. 研究の方法

研究目的(1)(2)(3)の全てにわたり、次の2つの研究方法をとる。(1)(2)とも研究協力者(所属先の大学院生)の協力を得た。

(1) 各地方言の終助詞の記述研究の収集・整理

(2) フィールドワーク(面接質問調査、談話や発話断片の収録)

4. 研究成果

研究期間全体を通じて、次の研究成果を得た。

(1) 日琉諸方言の終助詞に関する基礎資料の整備・公開。主にウェブデータベースとして発表した。

日琉諸方言終助詞（文末助詞、文末詞）文献リストの作成・公開

終助詞の体系を把握するための既存の調査票の電子化・公開

終助詞やモダリティに関する日琉方言の記述・対照のための調査票の作成・公開

終助詞を含む例文集の作成・公開

談話資料の整備

(2) 各地域方言の記述・対照。論文、書籍、ウェブデータベースとして発表・公刊した。

終助詞の体系の記述・対照

個々の終助詞の意味・用法についての記述・対照

終助詞以外の形式の終助詞化についての記述・対照（主に研究協力者による）

ただし、研究期間内に Covid-19 による研究活動、特にフィールドワークの制限があったため、当初予定していた活動・成果が一部達成できなかった。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計12件（うち査読付論文 1件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 7件）

1. 著者名 小西いずみ	4. 巻 99(5)
2. 論文標題 山梨県奈良田方言の行為要求表現体系：命令と禁止の対称性に着目して	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 国語と国文学	6. 最初と最後の頁 126-139
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小西いずみ, 小田幸生, 小幡幸輝, 阪上健夫, 竹林栄実, 山本久	4. 巻 19
2. 論文標題 日琉方言の疑問文・疑問表現調査票	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 日本語学論集	6. 最初と最後の頁 34-49
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.15083/0002007366	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 小西いずみ, 足立研二, 大島英之, 高城隆一, 田中智章, 中鉢絢貴, 中澤光平	4. 巻 18
2. 論文標題 日琉方言の命令・禁止表現（調査報告）	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 日本語学論集	6. 最初と最後の頁 186-126
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.15083/0002003402	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 小西いずみ	4. 巻 20巻2号
2. 論文標題 終助詞が表す意味とはどのようなものか：終助詞の方言間対照から見えてくること	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本語文法	6. 最初と最後の頁 23-39
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小西いずみ	4. 巻 34号
2. 論文標題 「方言の島」山梨県奈良田の言語状況	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 文化交流研究	6. 最初と最後の頁 87-94
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小西いずみ	4. 巻 -
2. 論文標題 遠隔インタビュー調査のための環境整備とツール選択	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 方言研究支援プロジェクト	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 小西いずみ	4. 巻 7
2. 論文標題 コロナ禍のもとでの方言研究：遠隔調査の実践と学生の研究経過の記録	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 方言の研究	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小西いずみ	4. 巻 110
2. 論文標題 日本語方言における終助詞の意味・用法と体系：富山市方言・山形市方言・共通語の対照	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 表現研究	6. 最初と最後の頁 33-42
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小西 いずみ, 阪上 健夫, 岩崎 凜太郎, 河本 健汰, 陳 港, 西川 由佳, 朴 校演, 平井 偉在耶, 福田 建	4. 巻 20
2. 論文標題 日琉方言の準体形式調査票	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 日本語学論集	6. 最初と最後の頁 86-104
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15083/0002009789	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また, その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 阪上 健夫, 小西 いずみ, 三樹 陽介, 吉田 雅子	4. 巻 28
2. 論文標題 奈良田方言: 特集補遺データ「受動表現」「ヴォイスとその周辺」「アスペクト」「モダリティ」「所有・存在表現」	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 語学研究所論集	6. 最初と最後の頁 1-46
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15026/0002000398	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また, その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 阪上 健夫	4. 巻 116
2. 論文標題 熊本方言における順接確定条件節の主節化	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 日本方言研究会研究発表会発表原稿集	6. 最初と最後の頁 17-24
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.60263/hougen.116.0_17	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また, その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 阪上 健夫	4. 巻 20
2. 論文標題 琉球諸語の名詞「もの」由来の助詞の用法 : 談話資料と文法記述資料から	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 日本語学論集	6. 最初と最後の頁 (32)203-(58)177
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15083/0002009791	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また, その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計12件（うち招待講演 8件 / うち国際学会 1件）

1. 発表者名 小西いずみ
2. 発表標題 聞き手待遇と談話管理における日本語方言の多様性と均質性
3. 学会等名 東京大学国語国文学会令和4年度大会（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 小西いずみ
2. 発表標題 山梨県奈良田方言の疑問：準体助詞のない方言におけるスコープ、事態既定性
3. 学会等名 日本語文法学会第23回大会（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 小西いずみ
2. 発表標題 富山市方言における疑問文の文末イントネーション
3. 学会等名 言語学フェス2023
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 小西いずみ
2. 発表標題 「方言の島」の語られ方：山梨県奈良田集落とすることばをめぐる言説
3. 学会等名 社会言語科学会 第47回大会（招待講演）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 小西いずみ
2. 発表標題 コロナ禍における日琉方言研究の支援活動
3. 学会等名 東京外国語大学アジア・アフリカ研究所フィールドサイエンスコロキウム（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 小西いずみ、三樹陽介、吉田雅子
2. 発表標題 山梨県奈良田方言の格・情報構造：属格ノ・ガの用法を中心に
3. 学会等名 国立国語研究所 研究発表会「格・情報構造（本土諸方言）」（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 小西いずみ
2. 発表標題 イントロダクション：コロナ禍における方言研究の経過と課題
3. 学会等名 Covid-19の影響下における方言研究のあり方を模索するWS
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 小西いずみ
2. 発表標題 方言の終助詞の対照研究：平叙文専用の形式を中心に
3. 学会等名 国立国語研究所シンポジウム「日本語文法研究のフロンティア：日本の言語・方言の対照研究を中心に」（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 小西いずみ
2. 発表標題 日本語方言における終助詞の種類・体系と表現特性
3. 学会等名 第56回表現学会全国大会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 KONISHI Izumi
2. 発表標題 A pilot comparative study on sentence-final particles in Japanese dialects. Oral presentation
3. 学会等名 Japanese Studies Association of Australia (JSAA) 2019 Conference (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 小西いずみ
2. 発表標題 日本語方言の終助詞体系の対照に向けて
3. 学会等名 愛知学院大学人間文化研究所研究会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 阪上健夫
2. 発表標題 熊本方言における順接確定条件節の主節化
3. 学会等名 日本方言研究会第116回研究発表会
4. 発表年 2023年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 セリック・ケナンほか（編）、小西いずみ・ほか（分担執筆）	4. 発行年 2022年
2. 出版社 国立国語研究所言語変異研究変異	5. 総ページ数 536
3. 書名 日本の消滅危機言語・方言の文法記述	

1. 著者名 大木一夫・甲田直美（編）、小西いずみ・ほか（分担執筆）	4. 発行年 2024年
2. 出版社 ひつじ書房	5. 総ページ数 614
3. 書名 日本語変異論の現在	

〔産業財産権〕

〔その他〕

小西いずみ「日琉諸方言終助詞（文末助詞、文末詞）文献リスト」 https://researchmap.jp/multidatabases/multidatabase_contents/detail/267410/2f3bec279688a5f45f815a261da122b3?frame_id=500891
小西いずみ、足立研二、大島英之、高城隆一、田中智章、中鉢絢貴、中澤光平「日琉方言の命令・禁止表現：調査票とデータ集」 https://researchmap.jp/multidatabases/multidatabase_contents/detail/267410/125b531b363c1053791d8a85e82f6797?frame_id=500891
小西いずみ、小田幸生、小幡幸輝、阪上健夫、竹林栄実、山本久「日琉方言の疑問文・疑問表現調査票」 https://researchmap.jp/multidatabases/multidatabase_contents/detail/267410/c6572cc74a9776ce3895975a0b47e004?frame_id=500891
小西いずみ、小田幸生、小幡幸輝、阪上健夫、竹林栄実、山本久「日琉方言の疑問文・疑問表現：調査票とデータ集」同(2) https://doi.org/10.5281/zenodo.7763408 https://doi.org/10.5281/zenodo.7763425
小西いずみ、阪上健夫、岩崎凜太郎、河本健汰、陳港、西川由佳、朴校演、平井偉在耶、福田建「日琉方言の準体形式：調査票とデータ集」 https://doi.org/10.5281/zenodo.10849165
小西いずみ「奈良田方言による「ももたろう」」 https://doi.org/10.5281/zenodo.11099046
小西いずみ「基本例文50要地方言訳データベース：山梨県南巨摩郡早川町奈良田方言」 小西いずみ「基本例文50要地方言訳データベース：富山県富山市方言」 https://sites.google.com/view/hogenbunpo/home/%E5%9F%BA%E6%9C%AC%E4%BE%8B%E6%96%8750%E8%A6%81%E5%9C%B0%E6%96%B9%E8%A8%80%E8%A8%B3

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	阪上 健夫 (Sakagami Takeo)	東京大学・大学院人文社会系研究科・博士課程学生 (12601)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------